

令和3年度

事業実績報告書

(総括)

社会福祉法人 泉寿会

特別養護老人ホーム・ケアハウスいずみ苑

令和 3 年度事業報告内容・総括

【 稼働率について 】

今年度の稼働率 90.5%(令和 2 年度より5.5%ダウン)

昨年度から引き続き、コロナウイルス感染症対策として、自宅から入所する際に隔離コロナウイルス感染症対策を追加した為、ショートを受け入れまでに時間がかかるようになっております。又、今年度は、介護職員の複数名の退職や派遣の終了があり、採用も苦慮している状況が重なり、ショートの稼働を抑え対応しております。結果、稼働率が5.5%の低下をしております。

【 総 括 】

(1)新卒採用に関して

令和3年4月に法人にて新入社職員が6名(日本人介護職3名、外国人介護職員3名)入職しております。昨年に引き続き法人研修(各施設の2週間体験)は行わず、配属先研修となっております。

○特別養護老人ホームいずみ苑:1名

○いずみ苑デイサービス:1名

○小倉町いずみ苑:1名

○第 2 いずみ苑:3名(外国人職員)

※外国人職員につきましては、日本の福祉の専門学校を卒業し介護福祉士を取得しており、介護ビザにて就業をしております。

(2)特定技能外国人に関して

令和 2 年度から、新たな雇用形態として特定技能外国人の受け入れを開始しております。令和 3 年度は 2 名の採用を行っており、令和 3 年度採用の 2 名と併せて 4 名の職員が就業しております。(日本語能力試験 N2 以上を条件に採用)

現在、すべての介護業務(日勤・早番・夜勤等)に就くことが出来ておりますが、記録の記入については、一部の特定技能外国人に限られる為、現在記入業務について指導中となります。又 令和 3 年度に 1 名実務者研修を受講しております。今年度は 2 名が受講予定となっており、介護福祉士受験に向けての準備も進めております。

(3)ケアハウスに関して

今年度も引き続き、コロナウイルス感染症対策として、入居者の外出範囲を制限して対応しております。買い物のご希望について、「いきいき通販」※高齢者施設用の通販を導入し、個人ごとに注文が出来るように対応しております。

介護老人保健施設 いずみ苑リハビリケアセンター

令和3年度事業報告・総括

【 上半期 】(令和3年4月～令和3年9月)

上半期平均稼働率：83.1%

入所：28名(内自宅より入所6名)

退所：20名

退所先：入院：12名 自宅：2名 特養：5名

有料老人ホーム 1名

新型コロナウイルス感染の影響が続きましたが、稼働率アップに努めました。

【 下半期 】(令和3年10月～令和4年3月)

下半期平均稼働率：88.6%

入所：30名(内自宅より入所4名)

退所：30名

退所先：入院：19名 自宅：3名 特養：7名 老健 1名

稼働がなかなか上がらない為、11月より近隣病院、あんしんケアセンター、居宅事業所へ空床状況も含めて営業のFAXを送り稼働率アップを目指しました。その結果、問い合わせは10件程きましたが、医療行為や料金面、自宅との行き来をしたいショートステイ希望だった為、実際の入所に繋がったのは2件のみでした。

【 総括 】

年間平均稼働率：85.7%

令和3年度は、稼働率97%を目標にしましたが、85.7%と前年度92.2%より6.5%低下、目標の97%を達成できた月はなく最高で92.6%の実績しか出せず目標達成をすることが出来ませんでした。

入所に関しては、在宅での生活が難しいと自宅から施設入所を希望される方が8名と今年度も多かったです。

退所に関しては、法人特養へ合計10名の入所者が移動されました。他施設へ退所された方もいましたが、入所の長期化に伴い高齢(90代)の方も多く泉中央病院への入院が多かったです。在宅復帰されたのは5名でした。そのうち1名在宅での生活が難しくなると戻られる方もいました。

その他、入退所は、通じて例年通り居宅・あんしんケアセンター・泉中央病院・医療機関・いずみ苑・小倉町いずみ苑・第2いずみ苑との連携・協力によりスムーズに行え、法人特養の稼働率アップに貢献出来ました。

令和3年度法人特養入所者数 いずみ苑3名 小倉町いずみ苑1名 第2いずみ苑6名

昨年度の新型コロナウイルス感染症の経験を元に感染対策につとめオンライン通話に続きご家族と窓越し面会を導入し、コロナ対策をしつつ、少しでも入所者さんが楽しんでもらえるように苑内や行えるように苑外散歩や日光浴等の時間を増やす工夫などをしてきました。引き続き入所者の体調も含め職員一人一人の健康管理も仕事の一つなので感染対策しながら気をつけていきます。

令和3年9月24日より EPA 職員の受け入れを1名行い、対応してきました。交流をしていくうちに改めて日本語の難しさを痛感し、教える難しさの壁にもぶち当たりましたが、各フロア担当職員で協力しながら元々いる EPA 職員の協力も得て、少しずつ成長して頂けると思います。EPA 職員の目標に沿って進めていきます。

次年度は、引き続き近隣施設や病院等に営業活動も行いながら、稼働率アップに力を入れながら入所者、職員が笑顔で生活できるように努めていきます。

特別養護老人ホーム 小倉町いずみ苑 令和3年度事業報告内容・総括

【 稼働率 】

1) 令和3年度稼働率 96.1% 1日の平均利用者 57.6人

今年度は、新型コロナウイルス感染症の発生もありましたが、前年と同様の稼働率を維持できました。令和3年度の入退所状況として、新規入所者22名。退所者が14名となっております。入院者17名（退院し施設に戻られたのが8名）入院総日数が247日間となっております。入所待機者に対して定期的にアプローチを行い、空室が出た際には直ぐに対応を行いました。

【 総括 】

2) 新型コロナウイルス感染症

令和3年1月28日～2月18日 新型コロナウイルス感染症が施設内で発生しました。利用者17名 職員6名の計23名が新型コロナウイルス感染症に感染。BCP事業計画に基づき早期の対応を行い、1ユニット内で感染を抑えることが出来ました。定期的なBCP事業計画の見直しと、今後も感染症対策を徹底していきます。新型コロナウイルス感染症に伴い、短期入所は46日間の受け入れの中止。デイサービスは20日間の自主休業を行いました。

3) 職員関係

職員の部分では、常勤職員の退職者は2名となっており、昨年に引き続き職員の出入りも少なく安定していました。令和3年度は職員の教育にも力を入れ、施設内研修、施設外部研修、WEBを活用し多くの研修に参加しました。役職者による定期的な職員面談も実施しチーム力の強化を目指しました。

4) 外国人雇用

令和3年1月にベトナム人EPA介護福祉士候補者2名の受け入れを行い、ベトナム人EPA職員が合計4名となっております。令和6年の介護福祉士国家試験に合格できる様に学習支援や生活支援を実施しました。（添付資料 P10）

5) 加算の算定・サービス活動収益

新たに、認知症ケア加算、看護体制加算、看取り介護加算の算定を行いました。利用者1日あたりに平均サービス活動収益も14,730円/日（特養・短期合算平均値）となっており、加算取得により活動収益も増加しています。

6) 外部・地域との関り

コロナウイルス感染症の関係で、外部の受け入れはほとんど実施できませんでしたが、地域や養成校との関りを持つために、地域住民（会食サービス参加者）などにお手紙の送付、養成校の代替実習や資料の提供などを行いました。直接介護を行わない事を条件に2校の実習の受け入れも実施しました。

特別養護老人ホーム 第2いずみ苑 令和3年度事業報告内容・総括

【稼働率】

年間平均稼働率：72.5%

【総括】

介護職員人材確保の難航により2ユニット再稼働が令和4年3月となり、稼働上昇が難しい1年となりましたが、施設基盤を整えるための看護体制の整備、受け入れ態勢の改善等を行いました。

具体的な体制変化として、看護体制が整ったことによる入院者減少があります。入院率が減少することにより一人ひとりの状況把握がし易く、結果としてケアの充実に繋がっています。その他、看取り対応3名、緊急ショート受け入れ10名と前向きに入所受け入れを進めていける体制が整いました。

今後も、地域の役割の一端を果たせるよう、関係各所と調整を行いながら利用者の選択の幅を広げてまいります。

【外国籍スタッフの人材雇用】

今期、第2いずみ苑で初めてネパール国籍の新人職員3名の育成に取り組みました。(在留資格 介護)制度外の受け入れの為、JICWELS(国際厚生事業団)などのサポートも無い中、各職員で話し合い、毎月の勉強会や話し合いの場を随時設けながらの育成となりました。

新人職員各々の真面目さと勤勉さもあり、入社9カ月で全員夜勤を任せられる程に成長しております。

【苑内活動】

感染対策による行動制限はありますが、苑内の楽しみを広げられるよう企画しました。プランターで野菜や花を植えて、各ユニット内で季節を楽しみました。畑でサツマイモを育てて共に収穫し、焼いも会を行いました。昨年特に好評であったのが、マニキュアを塗ってオシャレを楽しむといった企画でした。今後もこの様に従来の目線にとらわれず様々な企画を発信して参ります。

千葉市あんしんケアセンター千城台 令和3年度事業報告内容・総括

☆総合相談業務

- ・令和3年度の総合相談件数は1,028件、前年度比128件の増加です。昨年4月1日にイコアス千城台2階に事務所を移転、商業施設へ入店したことで知名度や来所の利便性が向上したことが要因と思われます。相談内容は介護保険や認知症、精神疾患関連の相談が前年度より増加、新型コロナウイルスの影響によりサークルや地域活動が休止となり、対人交流の場や運動機会が減少したことが背景にあります。地域の様々な活動が休止となるなかで、センターの広報活動を行う機会が限定されましたが、活動が再開された地域団体を訪問し、高齢者の総合相談機関であることの周知活動を行っています。

☆介護予防支援業務

- ・新型コロナウイルスの影響でセンター直営の4ヶ所の体操教室は休止となりましたが、同教室参加等を中心に健康状態や生活状況の把握を目的として短時間の個別訪問にて聞き取りを行いました。その際、閉じこもりによる体力低下や健康状態悪化を予防するため各種「体操案内」を書面にてお届けし、機能低下の予防に取り組むように案内を行っています。また、参加者からの要望を受け4月より屋外公園2か所にて体操教室を再開し、感染に留意しながら健康づくりを行っています。なお、当センターが担当する「要支援1,2」の方の介護保険ケアプラン作成件数は、5,424件、前年度比273件の増加です。サークルや地域活動が休止となったことで介護保険を利用し、フレイル予防目的で通所介護（デイサービス）の利用を希望する方が増えています。

☆包括的、継続的ケアマネジメント業務

- ・「若葉区ケアマネージャー研修会」や高齢者専門機関の相談員を対象とした「若葉区ソーシャルワーク連絡会」、医療と介護の連携推進を目的とした「若葉区多職種連携会議」等をオンライン開催し、継続的な「顔の見える関係づくり」を行っています。集合形式の研修会等の開催が困難のなか、今後もオンライン開催が多くなりますが、内容を充実させることで各専門職の資質向上確保の機会を設けます。

☆その他

- ・新型コロナウイルス感染状況を注視しながら、コロナ禍で休止となった地域住民向けのフレイル予防や終活等の講座再開に向けて準備を進めています。また、認知症の理解に向けて県立千城台高校や担当地区の中学生を対象とした「認知症サポーター養成講座」の開催も検討しています。